



埼玉弁護士会所属。自民党の改憲草案に反対する「明日の自由を守る若手弁護士の会」(あすわか)のメンバー。埼玉各地での憲法力フェに参加。女性・子ども・労働・民事・刑事などの問題で弁護活動を行なっています。二児の母。

過去の戦争の反省で二度と戦争を起こさない、この誓いから日本国憲法は生まれました。その憲法が壊されようとしています。憲法ママカフェで積極的に活動している堅十萌子(たてともこ)さん(弁護士)にお話を伺いました。

ママカフェで感じること

想はありません。二十年後、三十年後も平和な社会があることを願っています。そして忙しいママ達は、政治は難しいママカフェで伝えていたりです。ママ達は自分の命に代えて子どもを守りたいと思っています。日々、子どもにとって何がいいかを必死に模索しています。習い事は何かいいか、食べ物は何がいいかなど。子育て中のママたちに、「今が良ければいい、自分さえ良ければいい」という発

感

り、色々な思いから涙を流すママも多いです。
ママも多くの人がお金も有限でどう使うかを決めるのが政治

私は生活と同じで、国も、人もお金も時間も有限です。

限りがあることを忘れないで欲いのです。限られた資源

を何に使うかを選択し続ける

のが政治です。安保法制の成

立により、日本は、要件を満たせば、世界中で、武力の行

使や協力が出来るようになら

うか。貧困問題を扱う弁護士として、日本には沢山の問題

が山積していることから、軍

事費に使っている暇はない、と日々思うため、安保法制に

は断固反対しています。

死に考えるママ達にこそ、政

治を身近にし、政治こそ必死

に考えなくてはならない問題

なのです。子どもの幸せのた

めに政治がどうかかわるかを

話すと通じあうことがある

のです。

日本と同じ平和憲法を持つ

ことです。子ども達の命や生活

等に力を割くことが、日本の國力を高めて日本の発展につながるのではないかと感じています。

しかし、子ども達の命や生活

等を放置せず、福祉や教育費

等に力を割くことなどが、日本の國力を高めて日本の発展につながるのではないかと感じています。

しかし、子ども達の命や生活

等を放置せず、福祉や教育費